

科 目	必・選	担 当 教 員	学年・学科	単位数	授 業 形 態							
現代アジア論 Current Issues of Asia	選	赤崎 雄一 重松 正史	2年生 メカトロニクス工学専攻 エコシステム工学専攻学科	学修単位 2	半期 週2時間							
授業概要	アジア諸国の抱えるさまざまな社会・経済問題を、歴史的背景を重視しながら解説する											
到達目標	1．国際的視野を持った技術者をめざし、日本とアジア諸国とのつながりから、宗教・多民族社会など異文化理解を深める。											
評価方法	本科目の成績は、1回の試験（60％）、自由研究の報告（30％）、提出物（10％）で評価する。100点満点中60点以上の評価で合格とする。											
教科書等	プリントを配布											
内 容	（110分授業を15回実施する。なお、1回の自宅演習は240分を目処にする。）				学習・教育目標							
第 1 回	アジアと私たち		(自宅演習)	A								
第 2 回	近代日本とアジアの歴史 - 戦争の歴史 -		(自宅演習)	A								
第 3 回	近代日本のアジア進出 - 日本商品の販売 -		(自宅演習)	A								
第 4 回	戦後、日本企業のアジア進出		(自宅演習)	A								
第 5 回	日本と韓国の文化的社会的関係		(自宅演習)	A								
第 6 回	日本と中国の文化的社会的関係		(自宅演習)	A								
第 7 回	学生による報告		(自宅演習)	A								
第 8 回	グローバル化する日本企業		(自宅演習)	A								
第 9 回	中国の経済		(自宅演習)	A								
第10回	上海史		(自宅演習)	A								
第11回	NIES の政治と経済 - 韓国と台湾の成長		(自宅演習)	A								
第12回	東南アジアの工業化		(自宅演習)	A								
第13回	インドネシアのイスラム社会		(自宅演習)	A								
第14回	学生による報告		(自宅演習)	A								
第15回	全体のまとめ		(自宅演習)	A								
（特記事項）90分授業の場合は、上記内容を15週間に18回の授業で行う。		JABEEとの関連										
		JABEE	a	b	c	d1	d2a)d	d2b)c)	e	f	g	h
		本校の学習・教育目標	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B

現代アジア論ガイダンス

「現代アジア論」では大きく3部に分かれて構成しています。

第1部 「アジアと日本」

第1回 ～ 第6回

アジアと日本との間に歴史的問題は避けて通れない問題です。アジアと日本との溝を作る近現代史の問題を簡単に整理します。続いて、日本発の多国籍企業は全世界で活動し、安価なアジア製品が日本に流入しています。アジアと日本の経済的関係は深まる一方です。特に日本企業のアジア進出に注目し、その歴史的経過について学びます。

第2部 アジア諸国の政治・経済・文化

アジア地域で日本企業・日本人が受け入れられるにはその国の歴史・文化を理解する必要があります。「東アジア」、「東南アジア」の2地域に分け、それぞれの地域への理解を深めます。

第8回 ～ 第11回 「東アジア」

中国、韓国、台湾の政治・経済状況に注目し、この3カ国の急激な経済発展の要因を探る

第12回 ～ 第13回 「東南アジア」

現代東南アジア世界に重大な影響を与える植民地化の問題にも注目しながら、この地域の経済発展を考える。一つの例としてインドネシアに注目し、この国の政治、豊かな文化に触れる。
また、イスラーム社会は日本人に理解されにくい社会といわれる。この地域の文化と日本人との摩擦に触れながら、異文化を尊重する必要性を学ぶ

第3部 学生による報告

第6回、第14回、第15回 学生による報告

アジアに関して学生自らが調べ、パワーポイントを使用し報告する。お互いに質問しあうことにより、より深い理解を目指す。